

講義名称	日本思想史	担当教員名	高山 有紀
科目群	人文学 (HUM)		
科目区分等	歴史	単 位	2
対象学年次	1年・秋学期	ナンバリング	HUM132

授業のキーワード	信仰、生活文化、年中行事
授業の概要	信仰と生活をテーマに、日本文化の形成に影響力をもったとみられるさまざまな思想を扱います。思想史、精神史を重点的に学ぶ授業です。
期待される学習成果 (目標)	1、多様な生き方、ものの考え方があることを知ることができます。 2、身近な年中行事や生活文化を通じ、日本文化の特質について理解することができます。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	はじめに	授業の進め方について説明します。
2	日本人の信仰①	「神仏習合」の考え方の特質について学びます。
3	日本人の信仰②	浄土思想と日本人の「死生観」について学びます。
4	日本人の信仰③	死生観と関連し、中世の人々の「遁世」や「夢」に対する考え方について学びます。
5	日本人の信仰④	中世の人々による「起請文」作成の意味について学びます。
6	日本人の信仰⑤	近世の宗教政策を背景に、人々の娯楽と信仰の関係について学びます。
7	日本人の信仰⑥	近代以降の宗教政策と日本人の信仰について学びます。
8	中間のまとめ	前講までの学習を総括します。
9	年中行事①	「節供」の成り立ちを通して、日本人の生活文化の形成について学びます。
10	年中行事②	「節供」の成り立ちを通して、日本人の生活文化の形成について学びます。
11	年中行事③	「正月」「盆」を通して、生活文化と神仏の関係について学びます。
12	年中行事④	「正月」「盆」を通して、生活文化と神仏の関係について学びます。
13	年中行事⑤	日本人の生活習慣と休日（休み日・遊び日、祝日等）の変化について学びます。
14	年中行事⑥	現代日本人が抱える諸問題を題材に、生活文化と思想の関係について学びます。
15	まとめ	全体を総括し、改めて思想史を学ぶ意義について考えます。

定期試験	仏教思想と年中行事等の発展の経緯について説明を求める試験です。
授業時間外学習	第1～5講：授業で扱う用語を予習で調べ、復習で確認します。第6～10講：家族の年中行事について聞き取りをします。第11～15講：「休み」の意味がどう変わったのか、復習しながら総括します。
評価方法	授業への取り組み（30パーセント）、試験（70パーセント）
使用する教科書（必ず購入してください）	教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。
参考文献	佐藤弘夫ほか編『概説日本思想史』（ミネルヴァ書房） 島菌進ほか編『勸進・参詣・祝祭』（シリーズ日本人と宗教 近世から近代へ4）春秋社 新谷尚紀ほか編『暮らしの民俗学2 ～一年～』吉川弘文館